



## 1 学校経営目標

- (1) 自ら学び自ら考える力を育成する
- (2) 豊かな心を育成する
- (3) 健康教育・安全教育の充実を図る
- (4) 特別支援教育の充実を図る
- (5) 学級や学校での人間関係づくりを推進する
- (6) 地域とともにある学校づくりを推進する

## 2 自己評価

- (1) 自ら学び自ら考える力の育成では、「個に応じた指導方法の工夫を通して」という研究テーマのもと、指導・支援の工夫に取り組んだことにより、自己有用感の高まりが見え、多くの児童が明るい表情で学習に取り組んでいる。
- (2) 豊かな心の育成では、ふるさとを大切にす心情や相手を思いやる気持ちが育むために、学校行事や幼稚園との交流活動、地域との交流活動はとても有効であった。自分から進んであいさつができる習慣は、まだまだ身につけているとは言えない。今後も具体的な場面を想定した指導を継続していきたい。
- (3) 健康教育・安全教育の充実では、朝ごはんを毎日食べる等望ましい生活習慣は多くの家庭で定着している。早寝・早起きについては一部の児童に課題がある。就寝が遅くなったり、朝起きにくい原因を迫及し、家庭と連携した取り組みが必要となっている。
- (4) 個別の指導計画に基づく指導を進め、児童の成長を促すとともに、通常学級における授業のユニバーサルデザイン化、スマイル教室等専門機関との連携等を推進することができた。S C、S S W、西備支援学校指導員、県総合教育センター指導主事等を講師に、効果的な研修を重ねることが出来た。
- (5) 教育相談を1回目は担任と、2回目は児童が望む教員と行うことで、児童の心の内を聞くことができ、児童の実態把握に役立てた。また、Q Uテストの結果を生かして一人一人の個性を生かした学級経営も行った。全校遊びを行うことで、異学年の児童がお互いのことを考えながら遊ぶ機会を多くつくることができた。
- (6) 地域とともにある学校づくりの推進については、ひとづくり事業を通して地域の多くの方に学校教育に関わってもらうことができ、本校の特色の一つとなっている。

## 3 学校関係者評価（評価者名）

### 評価者

- |                 |                   |
|-----------------|-------------------|
| 宮本 節夫（公民館長）     | 田中 哲夫（社会福祉協議会長）   |
| 稲本 一成（民生児童委員会長） | 渡辺 恭子（地域コーディネーター） |
| 船越 直子（地域おこし協力隊） | 野中 裕（PTA会長）       |

特別制度を利用している児童やその保護者が、野上になじんでもらえるようにと、地域のみんなが考えている。いろいろな面でできる協力はしていきたい。

## 4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

- ①小規模校の良さを生かし、個に応じた指導方法の工夫を続け、自ら学び考える態度の育成と基礎的基本的な学力の定着を図っていく。
- ②家庭での生活リズムの乱れにも課題が見られることから、保護者と連携しながら、家庭での生活習慣全般について改善を図っていく。
- ③地域等と連携した教育実践については、引き続き継続していく。また、他校との交流も必要であることから、来年度も青野小学校と一緒に、交流クラブや交流学习、さらに体験活動を行っていく。

学校経営目標等	具体的計画	自己評価		学校関係者評価	評価
		達成状況	評価		
自ら学び自ら考える力の育成	①基礎的・基本的な内容の確実な定着 ②個に応じた効果的な指導 ③体験活動の重視	①ステップアップタイムの工夫や、放課後算数教室等で基礎・基本の定着を図っている。 ②個に応じた指導・支援の工夫を進め、少人数を生かした一人一人の児童が活躍できる授業づくりを行った。 ③体験活動と結びつけ、話す書く活動を積極的に行った。	B A B	①個に応じた指導を引き続き行って欲しい。 ②学習発表会を見て、一人一人に合った授業をしていると感じた。 ③体験活動と関連づけて行うのは効果的である。	B A A
豊かな心の育成	①道徳教育の推進 ②読書活動の充実 ③地域や幼稚園、他校との連携	①友だちに対してやさしい言動をとることができる児童が増えている。 ②読み聞かせを継続している。 ③コロナ禍での制約等はあるが、地域の方の協力を得て、多様な活動に取り組みながら、ふれ合いを深めた。	B B A	①あいさつが、よくできるようになってきている。気持ちが良い。 ②読書活動は今後も継続を期待する。 ③幼稚園と日常的に交流ができていて、とても良い。	A B A
健康教育・安全教育の充実	①保健教育、食育の推進 ②体力作りの推進	①チャレンジカードを使っての生活習慣づくりや、栄養教諭と連携した食育の授業、保護者も対象とした講演会等を行った。 ②業間や昼の休み時間には、職員も一緒に外に出て、一輪車や陣取りなど、積極的に体を動かす活動を行い、日ごろから体を動かす習慣化を図った。	A B	①食育をテーマに授業や講演をしたことは、子どもにも保護者にもとても良かった。 ②休み時間や放課後等に、運動場から楽しそうな声が聞こえてきてとても良い。	A B
特別支援教育の充実	①個別の指導計画に基づく指導の充実 ②特別支援教育の視点を生かした授業改善	①児童のニーズの把握に努め、日常的な指導の積み重ねを通して児童の成長を促した。 ②授業のユニバーサルデザイン化に取り組むとともに、特別支援教育の視点で授業改善を行った。	B A	①特別支援の必要性は感じている。家庭や専門機関と連携してほしい。 ②学校全体が、一人一人を大切にしていることが、伝わってくる。	A A
学級や学校での人間関係作り	①生徒指導の充実 ②教育相談の実施	①個別の課題に対応した指導体制を確立していった。役割分担を決めチームで対応している。 ②児童の悩みを早期発見し、適切な対応をすることができた。	A B	①異学年が一つの遊びをすることで、お互いのことを考えるよい機会となっている。 ②SCやSSWの活動やかかわりが、あまり見られなかった。	A B
地域とともにある学校づくりの推進	①地域学校協働事業による開かれた学校づくりの推進 ②学校だよりやホームページ等による地域への情報発信	①コーディネーターの協力のもと、地域の教育力を活用することができた。 ②学校通信やブログの更新をして、学校の様子を発信した。	A B	①子どもの成長した姿が見られ、子どもに教えられることも多い。 ②通信やHPで発信をして、特別制度の周知をして欲しい。	A B